

東洋大学学術情報リポジトリ Toyo University Repository for Academic Resources

## 論文以外のコンテンツ

雑誌名	dialogs
号	8
発行年	2008-08
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1060/00004979/">http://id.nii.ac.jp/1060/00004979/</a>

ISSN ●●●●●

# dialogos



東洋大学文学部紀要 第60集  
英語コミュニケーション学科篇  
第8号

# dialogos

## 第8号

- |  |                |
|--|----------------|
| 少数語数の応答文   | 鈴木 雅光          |
| 文型第2水準：基本文型  | 山中 桂一          |
| Burning in the Fires of Longing:<br>The <i>Kokinshû</i> Poetry of Ono no Komachi       | Charles Cabell |
| 枠組転換 —破滅から創生へ—   | 吉田 収           |
| Rasch Model Analysis of EFL<br>Receptive Vocabulary Breadth                            | Phillip Rowles |
| New Perspectives in Grammar Teaching   | Steven Kirk    |
| Teacher to Researcher Chrysalid Shift:<br>EdD Pupil as Pupa Anticipating Metamorphosis | Phillip Rowles |
| 映画 <i>Roman Holiday</i> を用いた英語教育   | 名倉 秀人          |
| アルプスの谷から   | 鈴木 雅光          |

## 目 次

---

少数語数の応答文	鈴 木 雅 光	1
文型第2水準：基本文型	山 中 桂 一	11
Burning in the Fires of Longing: The <i>Kokinshū</i> Poetry of Ono no Komachi	Charles Cabell	37
梓組転換 ―破滅から創生へ―	吉 田 収	63
Rasch Model Analysis of EFL Receptive Vocabulary Breadth	Phillip Rowles	101
New Perspectives in Grammar Teaching	Steven Kirk	119
Teacher to Researcher Chrysalid Shift: EdD Pupil as Pupa Anticipating Metamorphosis	Phillip Rowles	145
映画 <i>Roman Holiday</i> を用いた英語教育	名 倉 秀 人	161
アルプスの谷から	鈴 木 雅 光	177

---

平成19年度英語コミュニケーション学科活動報告	191
-------------------------	-----

平成19年度英語コミュニケーション学科専任教員活動報告	195
-----------------------------	-----

## 《編集後記》

卒論がらみでE.T. ホールの『文化を越えて』(1976)を再読した。記憶の劣化が進んで、むかし愛読したにもかかわらずまるで初見のように思えたのには驚いたが、身近ところで知識がきわめて表層的に流通している様子も改めて実感した。どうしても考えてしまうのはインターネットのことである。

毎年、このひととメーラビアンは耳にたこが出来るほど卒論に登場する。けれども、社会的密度という概念や言語／非言語コミュニケーションの比率がほんの儀礼的に触れられるだけで、原著に1行でも目を通した形跡はまず見えない。これは見過ごしてしまうにはあまりに大きな問題であるように思われる。

インターネットの検索や読み飛ばしで「情報」を手に入れるのと、自分の思考空間をいっぱいに広げて書物のページをめくるとでは質的に大きく違っている。卒論に登場するホールと、書き手としてのホールは別人である。書き手は深度の違うことばで説き、語っている目の前の人間である。情報はそうした気配の消された符号である。いっそのことゼミ生には何か読み応えのあるものを一冊選んでもらって、1年間これと真剣に向き合わせ、「感想文」でもいいから10枚書かせてはどうだろう、と本気で思う。卒論作成という制度が目指したはずの教育的な目標は、こちらにこそ連続した作業であって、情報の処理作業ではなかったのではないか。

最近では、たとえばレポートを課すと、多くの提出物が、同一・少数個の段落のさまざの組み合わせから出来ている、ということが時折ある。これは当然、いくぶん希釈されたかたちで卒論にも当てはまるだろう。筆記試験における不正行為については学内での扱いが統一されるようだが、他方で、作文、レポート、卒論といった、教育手法や能力評価の重要な一環がインターネットの濫用と悪用によって浸食されているという深刻な現状がある。どげんかせんといかん。(KY)

## dialogos

### 第8号

---

発行日	平成20年(2008)年3月1日
発行所	東洋大学文学部英語コミュニケーション学科
住所	〒112-8606 文京区白山5-28-20
電話	03-3945-8425
発行人	倉田雅美

---



# dialogs

Proceedings of the Department of English Communication  
Number 8 March, 2008

---

## Contents

Small Responses	Masamitsu Suzuki	(1)
Towards Defining Second-Order Sentence Types	Kei I. Yamanaka	(11)
Burning in the Fires of Longing: The <i>Kokinshû</i> Poetry of Ono no Komachi	Charles Cabell	(37)
Paradigm Shift	Osamu Yoshida	(63)
Rasch Model Analysis of EFL Receptive Vocabulary Breadth	Phillip Rowles	(101)
New Perspectives in Grammar Teaching	Steven Kirk	(119)
Teacher to Researcher Chrysalid Shift: EdD Pupil as Pupa Anticipating Metamorphosis	Phillip Rowles	(145)
English Education Using <i>Roman Holiday</i>	Hideto Nakura	(161)
<hr/>		
Out-of-the-way Villages	Masamitsu Suzuki	(177)
<hr/>		
Reports on Academic and Educational Activities in the Year of 2007		(191)